

トラクター搭載型タワーヤーダの実演見学会を開催

【飛騨森林管理署】

5月15日、岐阜県高山市清見町三尾山国有林において、「トラクター搭載型タワーヤーダの実演見学会」を市町村・林業事業体等約30名の参加により開催しました。

急傾斜地の多い岐阜県においては、架線による集材搬出が主流ですが、架線の作設や撤去に時間を要するなど、生産性の向上やコストの低減を図る上で大きな課題となっています。

今回の実演見学会は、間伐事業の受注者である(有)三進造林の技術提案及び協力により行われ、岐阜県が所有し、岐阜県森林技術・普及コンソーシアムの事業として貸し出されたタワーヤーダの操作研修を兼ねており、岐阜県森林文化アカデミーの講師から説明もありました。

このタワーヤーダの特徴は、自走式で機動力があり、架設・撤去が短時間で先山と土場の二ヶ所からリモコンによる搬機の操作が可能なことです。

県内での使用事例は、九例目と少なく、今後、どのような場所で使用することが有効であるかを検証していくことが必要になる一方、日本には一台しかないことから、導入した場合のメンテナンスや修理にも課題があると思われます。

今後も、国有林のフィールドを活用し、技術・知識の普及、情報交換など民国連携による森林づくりを推進していきたいと考えています。



トラクター搭載型タワーヤーダの実演見学の様子

ミズバショウ群生地に電気柵設置

【飛騨森林管理署】

6月2日、高山市の山中山国有林内にあるミズバショウ植物群落保護林にて、ニホンジカなどの侵入防止のための電気柵の設置を地元の寺河戸町内会、岐阜大学、高山市等が連携し実施しました。

同区域は、岐阜県の天然記念物「山中峠ミズバショウ群落」に指定されており、自動カメラを用いた調査によりニホンジカの湿原への侵入が確認されたことから、平成23年からこの時期に電気柵を設置しています。また、昨年台風等により電気柵が壊れ、一部にニホンジカなどによる被害があったことが、岐阜大学安藤教授から報告されました。



防草シートの張り替え作業

本作業では、岐阜大学の学生15名の参加もあり、電気柵の設置のほか、昨年の暴風により壊された防草シートの張り替え等がスムーズに進みました。

こうした取り組みによって防護柵内での食害は、ほぼ完全に防がれ、減少傾向にあったミズバショウも徐々に回復しています。年々、ニホンジカの分布域が拡大し、高山帯への侵入も散見されることから、今後、個体数調整も含めた取り組みが必要となっています。